

令和2年度 大雪山国立公園連絡協議会総会

議事概要

日 時：令和2年11月4日（水）13:05～15:00

場 所：上川町役場会議室

出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち、（一社）ふらの観光協会 石川氏、十勝西部森林管理署東大雪支署 中村氏が欠席）

概 要

1. 開会

大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・大雪山国立公園連絡協議会が改組・拡充され、はじめて構成員が集い、総会を開催することができた。コロナ対策を始め、皆様には忙しい中、またお足元の悪い中、ご参加いただき心から御礼申し上げたい。
- ・大雪山国立公園連絡協議会は平成5年に設立され、当時は関係する地方自治体が中心となり、当時とても脆弱だった国立公園の管理、運営を補う意味で設立された組織だと認識している。しかし、今回の改組・拡充によって、官・民が連携し、将来ビジョンの実現に向けて取り組める体制に生まれ変わった。
- ・ビジョンでは、大雪山国立公園をまずはしっかりと守り、その価値を高め、その魅力を有効に活かしていくという内容になっている。コロナウイルス感染症の影響からの回復はもちろんであるが、その後も新しい観光のあり方の指針になるものであり、ビジョンや大雪山国立公園連絡協議会は地域社会に、より重要なものになったものと考えている。
- ・今後、例えば、国立公園の利用者から協力金をいただき、それを管理運営に充てることにより、現在問題となっている登山道の荒廃を防ぎ、改善をしていく動きに繋がれば良い。または、省エネルギー対策予算を官民で利用し、インフラの更新を進め、温泉地はもとより地域全体の賑わいに繋がる。更に国立公園だけではなく、地域社会全体が目に見えて変化して良くなっていく、具体的な成果も求められることになると思う。そのとき、各構成員がビジョンの実現に向けた取組を進めることがきわめて重要になってくるので、大雪山国立公園連絡協議会の取組に更なるご協力をいただけるようお願いしたい。
- ・大雪山国立公園連絡協議会の拡充、改組については、これまで環境省を中心に調整いただいた。拡充、改組後、初めての総会であるので、北海道地方環境事務所長からひとこといただきたい。

北海道地方環境事務所長

- ・日本の国立公園は土地所有も含めて非常に多様な環境が指定されていて、適正に管理運営していくためには、そこで活動したり、住まわれている様々な主体の方々と連携し、ともに情報を共有して話し合っていく場を作っていくことが不可欠になる。そこで、関係者がビジョン共有し、役割分担をしながら課題に取り組んでいく協働型管理運営を求められるようになってきた。
- ・大雪山国立公園でも山麓から稜線、頂上部まで様々な環境があり、そこにたくさんの

関係者の方々が存在する。この協議会はそもそも関係機関の協議会として運営されてきたが、平成 29 年度の総会場で協議会の拡充が提起され、その後調整を進めながら様々な立場の関係者の皆様にご参画いただけることになった。

- ・自然環境を保全していくことが国立公園の大きな目的で大前提であるが、利用も大きな目的である。質の高い自然体験や居心地の良い滞在などを提供していくことが保全に繋がり、国立公園の価値を高め、国内外に大雪山国立公園の名声を広めていく大きな要素になる。そのためにも関係する様々な立場の方に積極的に関わっていただくことが必要と考えている。
- ・今回、環境省は今まで通り事務局という立場もあるが、理事という立場にもなったので、一層積極的に関わっていききたい。コロナウイルス感染症の影響で持ち回りということになったが、6 月に策定した大雪山国立公園のビジョンの実現に向けて一緒に考え、作業していききたいと考えている。ご参画いただく皆様には積極的にご意見をいただき、ビジョンの実現にご協力いただきたい。

2. 議事

(1) 大雪山国立公園ビジョンを実現するための取組について

大雪山国立公園管理所長より資料 1 の説明。

- ・令和 2 年 6 月に策定された国立公園ビジョンについて改めて内容の説明が行われた。
- ・P17 の「気候変動への適応」について意味を確認したいと構成員から質問があったため補足して説明するが、適応という言葉自体は、気候変動が生じ、かつ影響・被害が出た場合、それを防止したり軽減したりするという意味。このビジョンでは、気候変動による変化が生じていないか植生調査やモニタリングを行うことも含めて考えており、たとえば環境省では生物多様性センターがモニタリングサイト 1000 という取組を通じて監視していくことになる。また、次の資料 1-2 でもモニタリングを挙げられている団体もあるが、そのような活動を行っていくことも重要。
- ・ビジョンの実現には、協議会としての取組 = 事務局中心の取組も重要で、これについては令和 2 年度事業計画で議論するが、しかし、個々の構成員の取組も重要。ビジョンの実現に向けてどのような取組をしていきたいか、事前に何って資料 1 - 2 にまとめているが、拡充・改組後はじめての総会であるため、ご挨拶も兼ねて、各機関・団体から 2 分程度で意気込みをご発言いただきたい。

北海道大学大学院農学研究院 准教授 愛甲哲也

- ・新型コロナウイルス感染症の影響によって登山者の動きがどう変わるか、それによる影響を緩和し、登山者に密な状況を避けていただくために情報提供をどうしていけば良いか検討し、シーズンはじめに環境省から過去の登山者カウンターのデータをいただき、その傾向を分析し、例年の状態で曜日の並びから「混雑予想カレンダー」を作成した。この結果の解析を今後行う。
- ・昨年度から取り組んでいるが、大雪山・山守隊のボランティア等による登山道補修の効果を検証で、ヤシネットを敷設しているところの植生調査を行っている。対象としているのは雲の平、裾合平、トムラウシ南沼野営指定地であるが、それぞれの場所のヤシネットが敷設されている場所、されていない場所の植生比較調査やドローンによる測量を行った。今年度は、ネットが敷設されている場所では、着実に植生が戻ってきている。実生個体のチングルマが増えて、昨年見られた個体もサイズが大きくなってきている。
- ・大雪山でこれまで撮影されてきた写真を活用し、景観がどのように変化してきたか分

析する研究を行っている。大雪山は日本で最初に指定された国立公園の1つであるため、写真の蓄積もあり、東川町の大雪山ライブラリーからアーカイブスもお借りし、それを比較するために写真を撮影し景観の変化を見ている。これは気候変動の分析や、登山者がどのように変化してきたかという分析にも使える。自然景観の変化、文化の変化を写真で比較することによって解析することを進めている。これらの研究成果については部会などで発表したい。

上川総合振興局環境生活課

- ・公園事業執行者として様々な施設を整備しているが、我々だけではなく色々な団体の皆様のご協力をいただいている。また、事業ではボランティアの方々にもご協力をいただいている。黒岳のトイレについても、地元の皆様のご協力でし尿を下ろしたり、維持管理を行っている。外来生物対策として、セイヨウオオマルハナバチの監視を行い、豊かな自然を守る活動もしている。
- ・北海道でも施設の老朽化は認識しており、財源が乏しい中で何とか対応しているが、今年度は姿見の池周辺の標識改修を行った。標識はスマートフォンをかざせば5カ国語の音声が出る多言語対応となっている。
- ・財源が確保できなかつたり、北海道だけではできなかつたりすることも多くあるので、様々な方々のご協力を得ながら知恵を出しあい、できるところを増やしていきたい。

富良野市

- ・富良野市は十勝岳連峰の端っこの山裾に広がる原始ヶ原が大雪山国立公園エリアとなっている。原始ヶ原の登山道整備、環境維持について皆さんからご指導をいただいている。端っこが頑張らないとビジョンは実現していかないと考えており、こうした協議会を通じて学ばせていただきたい。
- ・例年同様、原始ヶ原登山道のコース整備を行っている。昨年度、原始ヶ原は2つコースがあるうち、沢コースの丸太橋を補修したことが新聞報道でも掲載された。しかし、数年間沢コースは通行止めだったので、丸太橋は回復したものの、登山道のササ刈りができていなかったため、ササ刈りを行った。今年、密を避けるためか、登山者の入り込み数が今までよりも若干だが多かったようだ。滝コースは大雪山グレード5であり、秋に看板リニューアルを行った。
- ・ワーケーション推進事業として、NPO 法人ふらの未来づくりという団体が原始ヶ原ブラッシュアップ事業として補助をいただきながら原始ヶ原を活用している。その中で、アウトドア事業の創出、今までと違った働き方を進めていくワーケーションを実施するためにコンテンツを増やすような事業展開をしている。

上富良野町

- ・美瑛町とともに日本ジオパークへの認定を目指し活動を続けている。ジオパークというのは、地質・地形の貴重な財産を保護しながら、教育・経済活動に繋げ、地域を活性化する取組であり、保全・保護だけが目的ではない。これまでは美しい国立公園を訪問していただく方が多かったが、なぜこの地形ができたのか、それを守ることにどういう意味があるのか、どう守っていくのか、どう楽しむのか深く学習するツアーをしっかりと実施していく。それに加え、郷土の方が郷土愛を持って郷土に接することにも国立公園を守ることに大変重要な意味があるので、美瑛町と郷土学習の中身、十勝岳のあり方を位置づけてプログラム化していく。これまでも登山道整備に加え、知る・知らせる活動、守りながら楽しむことを位置づけていくことをビジョンに沿ってやっていきたい。

上川中部森林管理署

- ・国有林の管理経営を通じてビジョンの実現にご協力できればと思っている。例えば保護林や緑の回廊を設定している。グリーンサポートスタッフ、ボランティア巡視員による巡視活動のほか、森林官も日常の業務で山をパトロールすることもあるので、引き続き保全や利用の状況を見ていきたい。
- ・国立公園に隣接する地域で皆さんに利用していただくためのレクリエーションの森として、上川町浮島湿原がある。そういったところも含めて、地域全体で活力が出てくるよう、地域振興に貢献していきたい。利用に当たっては、安全・安心が重要であるので、治山事業も引き続き取り組みつつ、価値のある国立公園を利用することができる取組を進めていく。

上川南部森林管理署

- ・当署では、富良野地域と言われる、1市3町1村の国有林の管理経営をしている。グリーンサポートスタッフの活動対象地域は、十勝岳や富良野岳となる。北海道森林管理局では天然林を生かした多様な森づくりを行っており、針葉樹を主体に造林し成長したら一斉に切ってまた植えるということを改め、侵入する広葉樹を生かして次の世代を見ながら進めていく森づくりを試行している。実際には皆伐よりも間伐または択伐という形で森林を経営していく。管内には天然更新が難しいカラマツがどのようにすれば天然更新が上手くいくのか試している。私どもは大雪山国立公園ビジョンについては非常に関心を持っているため、協力できるところは積極的に協力していきたい。

十勝西部森林管理署東大雪支署

- ・当署の管内は、土幌町、上土幌町、鹿追町、新得町である。市町村の要望もくみ取りながら、国有林としてできることを行っていきたい。

(一社)層雲峡観光協会

- ・上川町や観光協会会員と連携しながら、利用者増のための取組として、今年秋に奇跡のイルミネートとしてライトアップ事業を行った。コロナ禍であるが、9月後半の連休から多くのお客様が来ていただいて満足していただいた。
- ・層雲峡商店街についても、利用者に歩いていただくための取組を進めている。11月14日(土)にアーリークリスマスとして上川町の新酒販売、豚汁の振る舞いを行う計画をしている。来年1月30日～3月14日まで層雲峡氷瀑祭りを開催予定。層雲峡温泉としては、1地域で集客するのは難しいので、ここにいる皆様と協力しながら集客をしていきたい。

(一社)ひがしかわ観光協会

- ・ひがしかわ観光協会では、町が取り組んでいる自然保護対策事業、環境整備事業に協力している。国立公園内で毎年6月に旭岳の山開きと安全祈願の催しをしている。新型コロナウイルス感染症の影響で山開きは縮小したが、来年以降は引き続き、6月の第3土曜日を目安に安全祈願とアイヌの儀式ヌプリコロカムイノミを開催したい。
- ・環境スポーツイベントとしてSEA TO SUMMITが例年開催されており、今年10回目の記念大会の準備を進めていたが、東川を含め全国13会場全て中止となった。来年、仕切り直し、10回の記念大会を開催し、観光交流人口を増やすことを目指している。

(一社)美瑛町観光協会

- ・美瑛町では、昨年は240万人を超える観光入込みがあり、数多くのインバウンドの外国人に来ていただいた。観光面は、コロナ禍のなか外国人観光客は激減した。しかし、夏場から青い池には、道民や国内の観光客が数多く来ている。
- ・観光協会の取組として、資料1-2にも記載しているとおり、十勝岳登山会を毎年6月の第3日曜日に開催している。その麓にある三沢小学校の児童により構成された十勝岳愛護少年団という組織が、毎年十勝岳の清掃登山を実施している。コロナ禍の中、活動は中止となったが継続して進めていきたいと思っている。
- ・美瑛町では、数年前から町の歴史・自然・文化を学ぶことを「美瑛学」と名づけ、これらの推進、ボランティア意識の醸成を図っている。

(一社)かみふらの十勝岳観光協会

- ・上富良野町、美瑛町とともに、十勝岳ジオパークの認定を目指しているところである。
- ・観光協会の事業としては、山開き、紅葉祭等を行っている。山開きは、新型コロナウイルス感染症の影響で縮小し、祈願祭のみ実施した。
- ・紅葉祭りは、お店は出さず、記念タオルだけを配った。紅葉は、今年は10日ほど遅れていたが、例年になく赤黄色が出て多くの方に来ていただいた。こうした状況からも、また自身も麓で温泉旅館を営んでいる中で、山を楽しむ利用者が増えていると感じている。
- ・昨年は、北海道、上富良野町と協力し、安政火口までの登山道を整備した。今年は、上富良野町が管理者となり、関係機関と協力し、今まで閉鎖していた三段山の登山道が9月に開通した。
- ・今年は、登山を楽しむ方よりも、宿泊者の方には、ハイキング、散策ができる場所の問い合わせが多く、また、近くにある安政火口までの2時間のコースをガイドしてほしいという問い合わせも多かった。今までは、登山目的の人が多かったが、今年は山を楽しんでみたい、登山靴がなくてもハイキングをしたいという人が増えていると私自身感じているところである。
- ・山の知識がない人も増えることから、今後は、安全管理という面でも、看板や登山道の整備などが重要になってくると感じる。
- ・山のトイレの問題について、取組から5年ほど経つが、当初は旅館で販売している携帯トイレの利用者が少なかったが、今年は在庫がなくなるくらい利用者が増えている。それを踏まえ、例えば550円を650円で売り、500円を携帯トイレを管理する資金に回せるシステムができないかと考えている。
- ・SNS、Facebookなどで情報発信することでお客様が増えていることを実感している。今後も毎日FacebookやYouTubeでの情報発信を続けていきたいと思う。
- ・民間が活用できる補助金がこれまで少なかったが、当旅館では、ワーケーションに関する補助金を環境省からいただいているため、有効に活用し、山に気軽に利用者が来られるように取り組みたい。
- ・今後も、多くの方と連携して活動を実施していきたい。

(株)りんゆう観光

- ・上川町層雲峡温泉で黒岳ロープウェイ・リフトの運営を行っている。また、上川町からの受託で、黒岳石室避難小屋の夏季の管理、愛山溪温泉愛山溪倶楽部の管理等している。
- ・民間の事業者であり、公園を活用し、お客様を迎え入れる役割であると思うが、大雪山国立公園の魅力が上がっていくことが我々の事業の魅力向上につながると考えてい

る。このことは、観光協会、各地の民間の事業者も同様に思って活動していると思う。

- ・また、活用するだけでなく、いかに守っていくか、つなげていくかを考え、民間事業者も取り組まなければならないし、そうしないと地域の将来性も途切れてしまうと思うため、今後、こういう場で、民間事業者としての目線や利用者の目線を大事にしながらか発言したい。
- ・取組については、ここ数年、登山、簡単なハイキング、ロープウェイに乗って渓谷や山を眺めようという色々なレベルのお客様がいるため、それぞれに対応するガイドプログラムを用意して、大雪山国立公園の素晴らしさを、来てくださった方に感じていただくことをしている。
- ・今後、いろいろなテーマで、特に協力金などは事業者にも影響が出てくることが多くあるため、積極的に発言をしていきたい。民間事業者の得意なところ、魅力の発信、使い方、向上については、色々とアイデアを出せると思うため、大雪山国立公園連絡協議会のなかで、力を尽くしていきたい。

道北バス(株)

- ・我々は、公共交通事業者であり、大雪山国立公園内では、層雲峡・白金温泉で路線バスを運行している他、帯広方面に向かう都市間バスを運行する中で、新得町、上士幌町でも運行している。
- ・昨今の人口減に伴い、非常に厳しい状況下であり、特に今年は新型コロナウイルス感染症の影響で当社も例年比 60~70%の収入と落ち込んでいるが、国、道、各市町村にお世話になりながら事業実施しているところである。
- ・当社の取組としては、CO₂の削減が挙げられ約 10 年前からハイブリッドバスを全体 150 台のうち、10 台ぐらい道内でいち早く導入し、CO₂削減に貢献している。層雲峡線には 3 台導入し、また上川町と連携し、赤岳、高原温泉の紅葉時期の乗用車の混雑緩和のため紅葉シャトルバスを運行している。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年の 1/3 ぐらいの入込みだったと思うが、無事運行はできた。
- ・人の移動は安全第一であり、この協議会の中でできることは、路線の維持である。人の移動に関して、必ず交通手段が確保できるということが大前提だと思っているため、路線の維持や環境保護など積極的に参加したい。

大雪と石狩の自然を守る会

- ・大雪山と石狩川をフィールドに自然保護活動をしている。
- ・自然とともに大雪山を知る・学ぶことを目的に、大雪山講座「ひぐま大学」を 36 年ほど実施している。大雪山に登山しての学習、旭川市内での座学などから成り、これまでに約 2100 名が本講座に参加をした。
- ・世界遺産条約が発効した 1972 年に本会ができたこともあり、世界遺産の優れた枠組みや仕組みを利用して、大雪山や石狩川の自然保護活動をしている。その一つとして、「大雪山を世界遺産に 大雪山フォーラム」をこれまでに 21 回開催。世界遺産以外にも、日本遺産、ジオパークなど様々な枠組みがあるが、それらと齟齬することはないため、連携し、優れた考え方を実際の活動に活かしていきたい。
- ・外来生物セイヨウオオマルハナバチを大雪山に入れないように北海道などと協力し、上川町や東川町、美瑛町、上富良野町などの国立公園の前線部分でモニタリングや防除を実施している。
- ・市民、行政が力を合わせて行わないと効果がないため、本協議会が官民で力を合わせて行う体制になったことは非常に良いと考える。その中で力を尽くしたい。

十勝自然保護協会

- ・ 共通認識として、大雪山国立公園は非常に自然豊かな場所だと思われる一方で、30～40年前の大雪山国立公園と現在を比べると自然資源は減少しているとも感じていると思う。
- ・ 「まもり、活かし、つなげよう みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園」のビジョンは良いが、活かす方に重点が置かれていると感じる。当保護協会が40～50年ほど活動してきた中で、大雪山国立公園の自然が減ってきていると感じている。自然を減らさないようにすることは活かすことにもつながるため、北海道や森林管理局と協力を続けながら、東大雪地域の自然保護、森林資源の復元に協力していきたい。また外来生物が増えているため、減らす努力をしなければならない。大雪山国立公園連絡協議会では、守る活動について提言をしていきたいし、一緒に活動していきたい。

北海道大学大学院 環境科学研究院 渡邊 悌二教授

- ・ 大雪山国立公園連絡協議会は、四半世紀の実績があり、この度、改組を行い北海道大学の関係者が参加することになり、できることを協力したい。
- ・ 環境科学研究院では、30年以上にわたり登山道の調査をしており、今は、登山道および登山道と一体した野営指定地の調査をしている。少子高齢化の中で、どのように効率的に維持管理をしていくか、本研究の調査結果や新しい手法を活用し、維持管理作業に貢献したいと思う。
- ・ 気候変化に関しては、基礎的な気象データ（気温・降水量等）は、標高の高い地域ではデータがないため、そのデータを大雪山国立公園連絡協議会で共有し活用できるようなシステム作りに協力していきたい。
- ・ 留学生・外国人から大雪山国立公園はどう見えるのか、ジオパーク化も含め、ポストコロナや少子高齢化の中で、新しい観光について考えたい。現在は、インターネット上で、お金を払いバーチャルな観光を楽しむことが成立している。それは、大雪山の魅力の世界に発信しやすい環境ともいえる。世界から大雪山に来ていただくことは重要であるが、それだけではなく、バーチャルの世界で楽しむことで、自然への負荷が減り自然を守り、その魅力を伝えていくことにつながるため、その点についても協力したい。

北海道地方環境事務所

- ・ 今年10月に白雲岳避難小屋の再整備が終了し、来シーズンから運用を開始する。新たな白雲岳避難小屋では、大雪山グレードなどの登山情報の発信拠点、協力金を収受し、登山道補修を行う拠点としての新たな機能も加わった。
- ・ 大雪山国立公園連絡協議会の事務局として、協力金、管理運営計画作業部会をはじめとして、丁寧な調整を行い、着実に成果を出したいと考えている。

上川町

- ・ 観光面については層雲峡観光協会より説明があったため、それ以外のことを説明するが、山を守る取組みについては、層雲峡美しくする会が層雲峡温泉を中心とした草刈り、ごみの収集、銀河流星の滝や銀泉台のトイレの管理等の環境美化活動を実施している。
- ・ NPO法人かむいが、環境省の交付金を活用してのべ100キロの登山道の整備を実施した。大雪山・山守隊については、高原温泉ヒグマ情報センターにて、登山道の補修を行うために募金を行っている。昨年度は30万円であったが、本年度は64万円を集め、それを登山道（木道）の整備に充てている。整備にあたってはボランティアを募

り、利用者に負担をしてもらいながら登山道を整備している。本取組は、ビジョンを先行的に実践している例であり、尊敬と敬意を評すべき活動と認識している。

- ・大雪山を活かす取組として、一昨年度、「世界に誇る通年型山岳リゾートを目指す」というビジョンを作った。アドベンチャートラベルを基軸にしながら、黒岳や銀泉台、高原温泉における日本一早い紅葉、日本遺産にも認定された「カムイとともに生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界」、伏流水を活用した日本酒、ミネラルウォーター造りなどを活用し、世界に誇る様々なコンテンツを準備し、年間を通じた観光、集客を進めたいと考えている。この取組が交流人口の拡大、産業の多様化、雇用の促進、民間事業者の利益の拡大につながっていくと考えている。

東川町

- ・ビジョンの取組として、昨年、環境省直轄の旭岳ビジターセンターが完成し、東川町の職員を配置した。ビジターセンターが中心となり資料に記載した取組を実施する。
- ・取組には記載していないが、国立公園内のトイレについて課題を感じている。利用拠点の公衆トイレの開設期間、時間が短いために利用できない問題点がある。そのため、トイレの裏にはティッシュが山積みになっている現実がある。設置者・管理者とともに利用者が利用しやすいトイレ環境を観光地の中でも作るべきと悩んでいる。
- ・ビジョンの P16 にある、利用拠点の低迷、廃屋の問題はなかなか解決しないと感じる。民間所有者が倒産した場合、どうすればよいのか、難しい問題が当町にもある。このような問題も一つずつ解決していかないと観光地や利活用に関しては大変と感じる。

上士幌町

- ・地域の維持管理としては、ひがし大雪自然館運営協議会と上士幌町東大雪を美しくする会の2つの組織があり、前者は登山道の管理（ササ刈り、倒木処理、ロープ張り、道標設置）や年々荒廃している登山道のルートの補修等を中心に行っている。
- ・後者は、登山道の入り口における仮設トイレの設置や携帯トイレの回収ボックスの設置、登山道上のごみ収集等を行っている。
- ・ぬかびら源泉郷は、登山者の滞在拠点であるが、2016年の豪雨の際に、登山道、林道が崩壊し、利用できなくなり登山者が激減している。特に人気の二ベソツ山については、新たなルート整備は行われているが、旧ルートの杉沢ルートは人気が高いため早く復旧してほしい。また、初心者向けであるとウペペサンケ山を含めたいいくつかの山が大変人気だが、その利用者に対しても案内することができない状態である。この件は、費用もかかり難しい問題であり、地域としても国をはじめ様々な機関に要請しているが、時間がかかると思う。これからも地元でできることはしっかりやりながら、要請活動を続けたい。将来的に以前のような登山ルートが復活すれば、以前のように多くの登山者が来訪される地域であるため、これからもしっかりとやっていきたい。

十勝総合振興局

- ・十勝総合振興局としては、昨年度ヒサゴ沼避難小屋の改修及びトムラウシ南沼野営指定地に携帯トイレブースの増設を実施した。
- ・平成30年度から3年かけてトイレ道の植生回復調査をおこなっており、今年でプロジェクト自体は終了するが、来年以降も地元山岳会や環境省と協力しながら継続していきたいと考えている。

美瑛町

- ・観光客の入込みは昨年度に比べ減少している中で、安全祈願祭・登山会については延期し、安全祈願のみ実施した。
- ・環境省の交付金を活用し白金温泉にある公衆トイレ（携帯トイレ回収ボックスも設置している）の改修工事を行っており、年明けから供用開始する予定。
- ・白金温泉近くに管理する野営場があり、登山利用者はある程度いるが、それ以外の利用者が大きく減っているため、少しでも十勝岳等に触れる方が増えればと考えている。

士幌町

- ・取組としては、例年白雲山登山道の整備をしている。例年であると6月に実施しているが、今年はコロナ禍の中で、当初より遅れた9月7日にササ刈りを行った。ササが伸びている状態だったので、次年度は早めに実施したい。
- ・登山利用者は昨年より増えていると聞いている。引き続き、登山道の維持管理、整備で協力させていただきたいと考えている。

鹿追町

- ・然別湖を中心として関係機関の協力を得ながら保全を行っている。具体的には登山道の整備に参加したり、外来生物ウチダザリガニの駆除をしたりしている。今後もそれらの取組を継続し、大雪山国立公園の環境を守り、質の高い体験ができるよう、協議会の皆様の協力をいただきながら進めていきたい。

新得町

- ・トムラウシ山では、新得町山岳会等により紅石灰で矢印をつけて道迷いを防止する活動を行っている。
- ・登山道の管理としては、トムラウシ温泉登山口から短縮登山道の分岐まで、短縮登山道からカムイ天上までのササ刈りを実施している。また、短縮登山口から登山道分岐までの登山道整備を新得山友会が行っている。
- ・登山道情報については、本町の観光協会のHPにて随時更新しており、5月～11月中旬までは直接新得山友会に電話で問い合わせ確認いただく体制としている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、観光協会でレンタカーを安価に提供している。トムラウシ山までの交通手段の確保が難しいため、一定の方に利用をいただいている。

北海道開発局課開発連携推進課

- ・本協議会に関連する当局が行っている事業についてご紹介する。活かす部分に関連すると思われるが、公共インフラの重要性、必要性を国民に理解してもらい、もっと身近に感じてもらうことを目的に「インフラツーリズム」を実施している。ツアーのひとつにある美瑛町の青い池は、十勝岳火山砂防の堰堤整備に伴い、水がたまった池であり、美しい水面が観光資源、良好な景観の一部となっている。この池をインフラツーリズムに取り込んで、観光客に楽しんでいただいている。
- ・またビジョンの安心・安全に関連する部分としては、大雪山国立公園へのアクセスの利便性向上、及び公園内の安心・安全な通行の確保の観点から、国道273号・39号における防災工事や、インフラ強化の観点からトンネルや橋梁の維持補修工事、適切な情報提供を災害時にも漏れなく可能とするような無停電電源装置の設置等を行っている。
- ・地域住民の安全と財産を守るための十勝岳火山砂防事業や層雲峡近隣で実施している石狩川上流直轄砂防事業を行っている。このような観点から本協議会の趣旨に則った事業の推進に努めたい。

北海道運輸局

- ・北海道の素晴らしい自然や文化を活かした新たな観光スタイルであるアドベンチャー・トラベルを推進している。来年の9月にアジアで初めてアドベンチャー・トラベルの世界大会であるアドベンチャー・トラベルワールドサミットを北海道に誘致することができた。今年は、そのサミットに向けて10月に旭川、帯広、白老、ニセコ、弟子屈でイベントを実施した。11月11・12日に札幌にてアドベンチャー・トラベル北海道ミーティングを開催する。興味のある方はご参加いただきたい。
- ・来年のサミットの本番では、プレサミットアドベンチャー、デイオブアドベンチャーというエクスカースションで、世界中の関係者を大雪山国立公園に連れてきたいと考えている。地域の方と連携して、世界中に北海道大雪山を発信していきたい。

NPO 法人南富良野まちづくり観光協会

- ・南富良野町から直接大雪山国立公園に至る登山道がなく、本協議会については消極的な部分があったと思うが、空知川を活用したラフティング等のアウトドア産業に関するガイドが人口の約2%おり、今後、ガイドの住む町として大雪山国立公園を利用し、色々な活動ができるのではないかと考えている。
- ・本年度環境省の補正予算を活用し、一つは、上ホロ避難小屋の修繕、そしてシーソラプチ川の自然勉強会を行い、もう一つは、電動アシストマウンテンバイクで大雪山国立公園を5日間かけて1周するという事業を行った。今後、国立公園を利用したアドベンチャー・トラベルの推進に力を入れたいと考えている。
- ・個人的には、協力金に関してこれから重要になると考えているので、その点について関わっていきたい。

北海道地方環境事務所 大林統括自然保護企画官

- ・総括として、一昨年前の11月末に準備会を立ち上げた時は、もともとの市町村に加え、民間、有識者等、多様な主体が集まったことで、一体何を行う組織なのかといった雰囲気があったように思う。しかし、その場での議論は盛り上がり、この2年間を経て、皆さんの考えがまとまりビジョンを策定することができた。そして各主体からたくさんの取組を挙げていただいたことは成果だと思っている。立ち上げからこれからは大事であり、また“みんな”とビジョンにあるとおり、各構成員の立場や意見を知ることが重要であるため、資料1-2の活動、取組の部分は帰って確認してほしい。この取組はそれぞれで継続していただき、また今後策定される管理運営計画にも反映したいと考えている。

(2) 審議事項

- 1) 令和2年度事業計画について
- 2) 令和2年度予算について
- 3) 作業部会の設置について
- 4) 大雪山国立公園連絡協議会の規約の改正について
以上、事務局より資料に沿って説明。
質問、意見等なく承認された。

(3) 報告事項

- 1) 大雪山国立公園における新型コロナウイルス感染症への対応について
(各機関・団体の優良取組)

事務局より資料に沿って説明。
質問、意見等なし。

3 . その他

(事務局)

年度末までに、管理運営計画作業部会 2 回、協力金等検討作業部会 2 回、登山道維持管理部会、登山道補修に関する技術検討会、登山道の事業執行に向けた勉強会、ビジョン策定記念シンポジウムなど多くの取組を予定しているので、御理解、御協力をお願いしたい。

4 . 閉会